

食品ロス削減への国民運動のさらなる推進を求める意見書

食品ロス削減推進法が令和元年10月1日に施行され、食品ロス削減に関する普及啓発が進められてきた。一方で、農林水産省が公表した令和3年度の食品ロス量は523万トンで、その内訳は、事業系食品ロス量が279万トン、家庭系食品ロス量が244万トンとなっている。

現在、世界で約8億人が飢餓に直面していると言われていた中で、国連世界食糧計画（WFP）では、飢餓で苦しむ人々のために年間480万トンの食料支援を行っている中、日本においては、食品ロスとしてまだ食べられるのに捨てられてしまう食料が、その約1.1倍となっているのが現状である。

また、食品ロスの削減は気候変動対策としても大変重要であり、廃棄において直接的に生じる環境への影響だけでなく、食品の生産過程で投入される天然資源やエネルギーの浪費、製造、加工、流通、卸、小売の各段階でのエネルギー消費など、環境に及ぼす影響は決して少なくはない。

よって、政府に対して、食品ロス削減推進法に基づき、誰もが取り組める脱炭素アクションとして、食品ロス削減への国民運動のさらなる推進のために、下記の事項について特段の取組を求める。

記

1 事業者と一体となったエシカル消費の普及促進

賞味期限や消費期限が近いものから選ぶ「てまえどり」など、エシカル消費の普及啓発を一層進めるとともに、食品ロス削減を積極的に進める事業者の評価や支援の強化を図ること。また、地域や事業者の食品ロスの計測、公表等の体制を拡充し、実効性を強化すること。

2 食品ロス削減につながる「小分け包装」等の拡大

食品のロスを防ぐための使用量や頻度に合わせた「小分け包装」、食品自体の鮮度の保持や賞味期限等の延長につながる容器、包装の改善や工夫の促進、外食産業における「小分け提供」や「持ち帰り」など、「食べきり」を積極的に進めるための取組を一層強化すること。

3 在庫食品や未利用食品の寄附の普及拡大

食品ロス防止のため、子ども食堂、子ども宅食、フードバンク等への企業等からの在庫食品の寄附促進や、フードドライブ（未利用食品の寄附運動）等の利活用で、「もったいない」と「おすそわけ」の好循環をつくり、国民運動としての取組を一層強化すること。

4 コミュニティフリッジ（公共冷蔵庫）の設置支援

事業系の食品ロス削減と子ども食堂等への支援を行うために、企業、商店などから提供された食料品等を地域に設置された冷蔵庫や冷凍庫で保管し、随時必要とされる住民や団体等に提供するコミュニティフリッジ（公共冷蔵庫）の設置や運営等への支援制度を整備すること。

5 出荷や加工前に廃棄されている地域の食材の活用

食に関わる事業者と野菜等の生産者の連携を促し、色や形における規格外品や食材の皮や芯や種など、出荷や加工前に廃棄されている地域の食材をできる限り有効に活用する商品開発や消費の拡大などに取り組む地方自治体等の事業に対して、積極的な支援を展開すること。

以上 地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和5年12月14日

岐阜市議会

国会及び関係行政庁宛